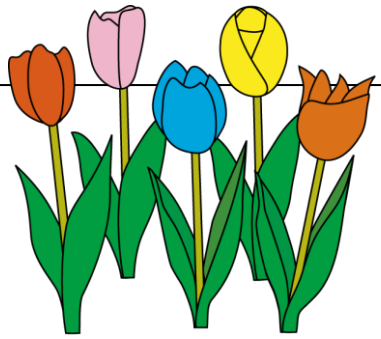
長崎市立大園小学校　校長室だより　Ｎｏ88

# 3月　今日の一言



８．３．５　　校長　渕上　卓也

## 震災から15年

### 「答辞」

今日は未曾有の大震災の傷も癒えないさなか、私たちのために卒業式を挙行して頂き有難うございます。

ちょうど 10 日前の３月 12 日、春を思わせる暖かな日でした。私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を希望に胸を膨らませ、通いなれたこの学舎を５７名揃って巣立つはずでした。前日の 11 日、一足早く渡された思い出の詰まったアルバムを開き、10 数時間後の卒業式に思いをはせた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らず……。

階上中学といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし自然の猛威の前には人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切な物を容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というにはむご過ぎるものでした。辛くて、悔しくてたまりません。

時計の針は 14 時 46 分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く正しくたくましく生きて行かなければなりません。命の重さを知るには、大き過ぎる代償でした。

しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。私たちは今、それぞれの新しい人生の一歩を踏み出します。どこにいても何をしていようとも、この地で仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、如何に貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。

先生方、親身のご指導有難うございました。先生方が如何に私たちを思って下さっていたか、今になって良く分かります。

地域の皆さん、これまで様々なご支援を頂き有難うございました。これからも宜しくお願いいたします。

お父さん、お母さん、家族の皆さん、これから私たちが歩んでいく姿を見守っていてください。必ず良き社会人になります。

私はこの階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。最後に、本当に本当に有難うございました。

平成２３年３月２２日
第６４回卒業生代表　梶原　裕太

**毎年配布している中学生の答辞です。思い、決意、志・・・大園っ子みんなで共有しましょう。**